

序 変わりゆく地域社会——課題への新たな取り組み

市野川 容孝

国際社会科学専攻・相関社会科学コースが1994年からおこなってきた研究プロジェクト「日本の地域社会」は2013年度、「変わりゆく地域社会——課題への新たな取り組み」をテーマとして実施された。

少子高齢化、地方から都市部への人口移動、あるいはグローバル化などによって、日本の地域社会はさまざまな局面で今も変容しつつある。それにともなって、新たな課題が浮上するだけでなく、以前から存在していた課題に新しい制度や方法で対処していくこともまた求められてゆく。変わりゆく地域社会の中で、(1)どのような課題が(今も)存在しているのか、(2)その課題について、どのような新しい対処方法が求められているのか、(3)そのような新しい対処方法を人びとがどのように生み出そうとしているのか。2013年度の調査は、このような問題意識にもとづいて実施された。

調査は3つのパートからなり、第1部の「保育サービス利用者の意向／実態と課題」では、東京都杉並区内の計5つの保育サービス施設の利用者を対象に質問票(アンケート)調査をおこなった。第2部の「渋谷中心地区における地域コミュニティの防犯活動」では、東京都の渋谷中心地区で防犯活動にかかわってこられた方々を対象にインタビュー調査をおこなった。第3部の「中山間地域における地域活性化」では、岡山県美作市をフィールドとして、2009年に始動した「地域おこし協力隊」という新しい事業にかかわってこられた方々を対象にインタビュー調査をおこなった。

以下に掲載する、齋藤早苗「親はどのような保育を求めているか——株式会社立保育所に注目して」はこの第1部の、また、石原遥「中山間地域の可能性——岡山県美作市地域おこし協力隊の活動から」は第3部の調査にもとづいた論考である。

調査にご協力いただいた方々すべてに、この場を借りて、あらためて御礼申し上げたい。